

博

物

館

No. 111

Museum News

ニュース



フタバガキ科の植物の果実。羽根のように長く伸びた“萼”が二枚ついている。

フタバガキ科の植物は、世界の熱帯に自生する常緑高木で、680種ほどが含まれます。特に熱帯雨林に多い樹種で、木材はラワン材として利用されています。“フタバガキ”という和名は、柿のような形をした果実に羽根突きの羽のような“萼”が2枚ついていることによります。

当館企画展「ジャングルいきもの図鑑」【会期：2018年7月20日（金）～9月9日（日）】では、ここで紹介したフタバガキ科の植物を含む、熱帯・亜熱帯域の森の奇妙で興味深い動植物をご紹介します。（植物担当：茨木 靖）

# ビワを加害する新害虫ービワキジラミ

山田量崇

## 1. はじめに

ビワは人家の庭先や集落付近の山野など、あちこちで見かける身近な果実です。日本では本州の房総半島や紀伊半島、四国、九州など、主に太平洋側の温暖な地域で栽培されています。ビワに付く害虫はこれまでいくつか知られていましたが、いずれも深刻な被害をもたらすものではありませんでした。

2012年5月、徳島県南部の栽培ビワにおいて、これまで全く知られていなかった害虫が多発生し、果実を黒く汚す「すす病」を起こしていたのが確認されました(図1)。この害虫の正体は、カメムシ目のキジラミ類でした。キジラミ類が排泄する甘露にすす病菌(糸状菌というカビ)が増殖したことによって、果実が黒いすすで覆われる「すす病」を引き起こしていたようです。ビワ栽培農家から報告を受けた徳島県病害虫防除所は、キジラミ類の専門家である井上広光博士(当時、農研機構果樹研究所)にこの害虫の種の特定を依頼しました。すると、世界に3000種以上知られるキジラミ類のどの既知種にも該当しない新種のキジラミであることが判ったのです。同年7月、徳島県病害虫防除所は、この害虫の学名が未決定のまま、和名をビワキジラミとして、病害虫発生予察特殊報を発表しました。その後、本種に *Cacopsylla biwa* という学名が与えられ、新種として記載されました(Inoue et al, 2014)。



図1 ビワキジラミによる果実の被害(写真:徳島県立農林水産総合技術支援センター提供)

## 2. ビワキジラミとは

ビワキジラミ *Cacopsylla biwa* (図2) は全長2.5～3.5mmのきわめて小さな昆虫です。翅を屋根型に折りたたむため、小さなセミのように見えます。成虫の体サイズや色彩は、発生時期によって異なります。多発生する4～6月では、淡い黄褐色の地に白色の細い線やまだら状の斑紋を多数そなえ、とても美しい色彩となります。透明な前翅の外縁には、ぼんやりとした黄褐色の斑紋が並んでいるのも特徴です。この時期の体色は、ビワの葉裏や枝を覆う微細な毛の色とよく似ているため、一種のカモフラージュとしての効果があるかもしれません(図3)。一方、秋から冬に出現する成虫は、体の地色や前翅の斑紋がやや暗くなります。幼虫(図4)は扁平で楕円形の体つきをしていて、花芽のすき間や果実の柄の部分などに身を隠して生活します。

キジラミ類の寄主植物(幼虫の餌となり、発育を完了できる植物)は、一般に、キジラミの種ごとに決まっています。本種もこれまでビワのみで確認されているため、ビワ以外の植物で発生する可能性は極めて低いと考えられています。

## 3. 発生・被害状況

徳島県病害虫防除所と農林水産総合技術支援センターの調査によれば、本種が初めて確認された2012年には徳島市、小松島市、阿南市、勝浦町、

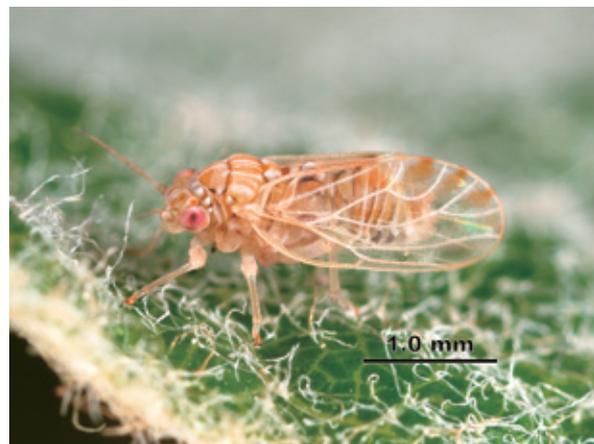


図2 ビワキジラミのオス成虫(春夏型)



図3 葉裏に群れるビワキジラミの成虫（春夏型）  
（写真：農研機構提供）



図4 ビワキジラミの幼虫（写真：農研機構提供）

佐那河内村、上板町の6市町村に分布が限られていましたが、2013年には神山町、鳴門市などで、2014年には吉野川市、上勝町などでも確認されました。その後も周辺地域への拡がりを見せ、現在すべての市町村から確認されています。本種の勢いは徳島県だけにとどまらず、2016年に香川県東かがわ市で、2017年に兵庫県の淡路島で、2018年に和歌山県由良町でそれぞれ発生が確認されました。

本種は栽培園や市街地など人為的な環境で発生しているにもかかわらず、これまで日本から全く知られていませんでした。そのため、近年になって国外から侵入した外来種とみなされています (Inoue et al., 2014)。侵入源や経路は不明ですが、ビワを加害するキジラミ類の情報もたらされている中国の長江流域が本種の原産地であると示唆されています (井上, 2015)。

本種の被害がもっとも目立つのは、ビワの果実が大きくなる4～6月です。果実の基部、芽や枝葉のすき間に隠れた幼虫が大量の甘露を出し、それに黒カビが繁殖してすす病を発生させます。被害がひどい場合は果実が落下し、果実が収穫できないこともあるようです。

#### 4. ビワキジラミを防除するために

本種を防除するのにいくつかの薬剤が使われています。しかし、すき間に隠れた幼虫には薬剤が届かず、あまり効果がなかった事例がありました。より効果的な薬剤の開発が必要とされる中、ビワキジラミを捕食する天敵の存在が注目されています。野外調査において、ハナカメムシ類やテントウムシ類、クサカゲロウ類の幼虫がキジラミを捕食している様子が観察されたのです (中西ほか, 2015)。なかでも、花芽などのすき間に隠れた幼虫を捕食するハナカメムシの姿が頻りに観察されました。今後、有用な天敵として期待できるかもしれません。

2017年度より、ビワキジラミのこれ以上の拡散阻止と、被害に対処できる防除技術を緊急に確立し、現場への速やかな普及を図るため、農研機構を中心とした「四国で増やさない！四国から出さない！新害虫ビワキジラミの防除対策の確立」という研究プロジェクトが始まりました (図5)。当館もその研究チームの一員として、ビワキジラミの天敵調査を進めているところです。

身近な果実であるビワが、いま小さな昆虫の脅威にさらされています。初夏の季節感あふれる甘酸っぱい味をこれからも楽しめるよう、研究チームで対策に力を尽くしています。まずはビワキジラミという小さな昆虫の存在に関心を持っていただければと思います。

井上広光博士 (農研機構) と中西友章氏 (徳島県立農林水産総合技術支援センター) には貴重な写真や有益な情報を提供していただきました。記してお礼申し上げます。 (動物担当)

品名	産地	発生月	発生場所	発生状況
スウツクスロアプル	上板町	発生	産地	産地
スウツクスロアプル	上板町	発生	産地	産地
スウツクスロアプル	上板町	発生	産地	産地

**【防除に関するポイント】**

- 果実の基部や枝葉、芽・枝葉のすき間に隠れて見えない。幼虫は甘露を出し、それに黒カビが繁殖してすす病を発生させます。
- 幼虫は果実の基部、芽・枝葉のすき間に隠れて見えない。幼虫は甘露を出し、それに黒カビが繁殖してすす病を発生させます。
- 幼虫は果実の基部、芽・枝葉のすき間に隠れて見えない。幼虫は甘露を出し、それに黒カビが繁殖してすす病を発生させます。

図5 ビワキジラミの注意喚起用リーフレット

(引用文献)

- Inoue et al. (2014) Appl. Entomol. Zool. 49: 11-18.  
井上広光 (2015) 植物防疫, 69: 98-101.  
中西友章ほか (2015) 植物防疫, 69: 102-105.

# ジャングルいきもの図鑑

ジャングルとは、一般に熱帯多雨林を意味し、年間を通じて温暖で雨量の多い地域に形成される植生、またはその地域のことを示します。熱帯雨林、熱帯降雨林、セルバなどとも呼ばれます。このジャングルは、陸上生物の種の8割を産すると言われ、生物の宝庫として知られています。この展示では、徳島県内では見る機会のほとんどない熱帯・亜熱帯域の森の奇妙で興味深い動植物について、剥製・標本(一部生体)を用いて紹介します。あわせて、沖縄県内の亜熱帯林や徳島県内の暖温帯林の生物についても紹介します。

- 会 期 平成30年7月20日(金)～9月9日(日)  
休館日：毎週月曜日(ただし、8/13(月)は開館)
- 主 催 徳島県立博物館
- 開館時間 9:30～17:00
- 会 場 博物館1階 企画展示室
- 観 覧 料 一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円

※土曜日・日曜日・祝日・夏休み期間は小・中学生及び高校生は無料  
※学校教育での利用は無料  
※高齢者(65歳以上)は半額(証明書等の提示が必要)  
※障がい者とその介助者1名は無料(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示が必要)  
※20名以上の団体は2割引

## <展示構成>

### (1) 第1部 ジャングルとは？

- ・熱帯・亜熱帯の森はどこにあるの？
- ・ジャングルを構成する植物

### (2) 第2部 日本のジャングル

～亜熱帯から暖温帯の暖かい森～

- ・日本の亜熱帯林 沖縄の森
- ・徳島で見られる暖かい森のいきものたち

### (3) 第3部 ジャングルいきもの図鑑

- ・脊椎動物：ナマケモノ、鳥、蛇、ワニ他
- ・無脊椎動物：南米産の昆虫類他

### (4) 体験コーナー

- ・塗り絵をしてみよう！

## <主な展示資料>

哺乳類：テングザル、オランウータン、テナガザル、ゴールデンライオンタマリン、アメリカバク  
鳥類：カンムリサケビドリ、ツカツクリ、ヒクイドリ、パラワンサイチョウ、テンニョハチドリ、コンゴウインコ、ツメバケイ、ケツァール  
魚類：ドラード、ピラルク、ピラニア  
昆虫：ヘラクレスオオカブト、モルフォチョウ  
植物：カカオ、ラフレシア

## <関連行事>

### (1) 展示解説

講師：当館学芸員  
場所：企画展示室(観覧料が必要)  
日時：1回目：7月22日(日) 15:30～16:00  
2回目：8月12日(日) 13:00～13:30  
3回目：9月 2日(日) 14:30～15:00

### (2) 記念講演会(連携博物館事業)

演題：「恐竜はどんな森を見ていたか  
—日本の恐竜時代の森林—」  
講師：寺田和雄氏(福井県立恐竜博物館主任研究員)  
場所：博物館3階講座室  
日時：7月29日(日) 13:00～14:30

# 小松島市和田島町漁祭りでのえびす舞

毎年4月最初の大安の日に行われる小松島市和田島町の漁祭りは、阿波人形浄瑠璃の人形座の一つ、勝浦座による「えびす舞」（えびす舞の表記については様々ありますが、ここではえびす舞で統一します）が奉納されることで知られています。2018年4月1日（日）にその様子の一部を見学することができましたので、紹介したいと思います。

和田島の漁祭りの起源については、よくわかっていませんが、現在のように勝浦座がえびす舞を事代主神社神事、漁業協同組合（以下漁協）や港、浜、加工場などに奉納して廻るようになったのは、昭和40年代（1965～1974）からだと言われています。

今回は午前9時すぎからの神事のあと、神社、漁協、港、浜、加工場など10ヶ所ほどにえびす舞の奉納が廻り（図1・2）、午後から漁協建物3階の舞台風に設えられた会場で、まず式三番叟の奉納、そしてえびす舞が上演されました。その後シラス漁への大漁祈願から始まり、さまざまな漁への大漁祈願がえびす舞によって行われました（図3）。

さて、このえびす舞、演じる人形座や場所によって登場する人形や演技の構成が少しずつ異なります。勝浦座によるこの漁祭りでの場合、えびす人形（三人遣い）の他、えびすを迎える代表者の役をする寄年頭の人形（二人で遣う）、えびすを迎え、御幣を神酒で清めたりする下役として、タンゼン頭の人形（一人で遣う）2体が登場します。

最初に寄年が「これこれ若い者、西の宮のおいべっさんを迎えてまいれ」もしくは「おーい浜の衆、三国一のえびすがまいった、浜を清めて神酒を注げ」の口上とともに遣われ、タンゼン2体が動き、うち1体が、奉納場所に置かれた御幣に神酒を注ぐ所作をします。その後えびす舞の詞章と平太鼓（舞台では大鼓）による拍子とともにえびすの人形が三人で遣われます。えびす舞はもともと淡路の人形座に特徴的なものだったとされますが、淡路の人形座では、タンゼンの人形がえびすの乗る船を漕ぐ船頭として遣われる場合があるそうです（ただしこれは比較的新しい変化とされて

います）。

今後、さまざまな人形座のえびす舞も調査したいと思っていますので、何か情報をお持ちの方はぜひ教えてください。

（民俗担当：庄武憲子）



図1 港に向かってえびす舞が奉納される場所。前列奥から、えびす（三人遣い）、詞章と平太鼓（一人）、後列奥からタンゼン2体（一人で遣う）、寄年（二人で遣う）。



図2 タンゼン頭の人形が御幣に神酒を注ぐところ。



図3 えびすから参加者へ振舞われる神酒。シラス、ワカメ、ハモなど次々と大漁祈願がえびす舞によって行われる。タンゼン頭の人形はえびすがすすめる盃に神酒を注ぐ役として遣われる。

# 博物館におけるドローンの活用

ドローン (drone) とは無線で遠隔操縦される無人の飛行体のことで、無人航空機 (UAV : Unmanned Aerial Vehicle)、ローターが複数あるものはマルチコプターとも呼ばれます (図1)。最近、ドローンの性能が急速に向上し、小型化、低価格化も進んだことから導入しやすくなりました。ホビーの分野だけでなく防災や農業、医療、建築など様々な分野で利用が進みつつあります。そして博物館においても例外ではありません。博物館の仕事は大きく分けると4つありますが (資料収集、調査研究、展示、普及教育)、それらすべてに役立てることが出来ます。まだ導入したばかりで手探りの状態ですが、ここでは調査研究と普及教育の事例を紹介しましょう。

図2は、県指定希少野生生物でもあるオヤニラミという魚の調査の一環で撮影したものです。オヤニラミは徳島県では桑野川水系を中心に3水系に分布しますが、これら3水系で遺伝的に異なります (これについては博物館ニュースNo.100 [2015] でも紹介しました)。ところが桑野川水

系の支川・南川に本州産の個体が何者かによって放流されてしまい、交雑の危機に瀕しています。そこで南川の外来個体群の生息状況を把握し、駆除計画を策定することになりました。図2の写真は47枚の高解像度画像からなり、拡大すると瀬・淵の様子だけでなく、小石まで識別することができ、河道の環境を評価するのに役立ちます。

図3と図4は、普及行事「磯の生きもの」で毎年春に訪れている竜宮の磯です。この写真は参加者に配布するテキスト用に撮影したのですが、このような画像があると、自分たちがどんな場所にいるのか一目瞭然です。ここには示していませんが、テキストにはドローンで撮影した画像から作成した360度VRパノラマ画像のQRコードを添付して、参加者がスマホなどで自由に閲覧できるようにしました。

これから展示を含め、もっといろいろなことにドローンを活用していきたいと思います。

(動物担当：佐藤陽一)



図1 博物館で使用している小型のドローン。1200万画素の写真や4K動画を撮影することが出来る。



図2 桑野川水系南川上流の約350m区間。外来オヤニラミの生息がもっとも多い区間の一つ。対地高度30m。パノラマ合成。囲みは同じ写真を拡大したもの。

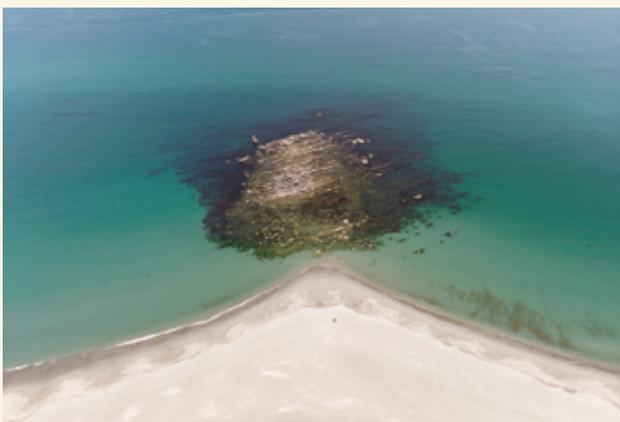


図3 竜宮の磯 (鳴門市)。対地高度100m。

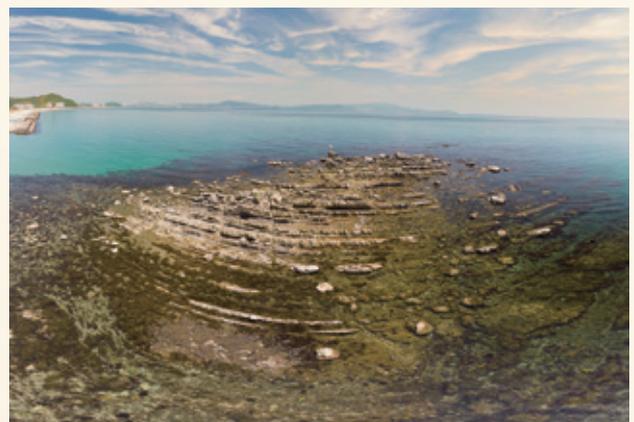


図4 竜宮の磯。対地高度20m。パノラマ合成。

## 東京に徳島藩ゆかりの門があると聞いたのですが、本当ですか？

本当です。その門は現在、東京都世田谷区<sup>せ た が や さい</sup>の西澄寺<sup>しやうじ</sup>というお寺にあります（図1）。「武家屋敷門<sup>ぶけやしきもん</sup>」という名称で、昭和39年（1964）4月28日に東京都有形文化財（建造物）に指定されています。東京都教育委員会が管理する「東京都文化財情報データベース」の解説文には、「東京に残る数少ない武家屋敷門の一つとして、貴重なもの」とあります。

「武家屋敷門」について、もとは芝<sup>しば</sup>（現、東京都港区芝5丁目）にあった徳島藩江戸屋敷<sup>とくしまはん なかや</sup>（中屋敷）の門であったとされます。大正末期に移築され、以後は西澄寺の山門として転用されますが、詳しい経緯や関連資料は残されていないようです。

門は切妻造<sup>きりづまづくり</sup>（本を開いて伏せたような形状の屋根の造り）で、屋根には蜂須賀家の家紋「左万<sup>ひ</sup>

字<sup>じ</sup>」があらわれた瓦<sup>かわら</sup>が使用されています（図2・3）。門の桁行は6間（約10.9m）、中央に両開きの戸があり、その左右に片開きの潜戸<sup>かくりど</sup>があります。さらに門の両端には、切妻造で桁行2間、梁間3間<sup>はりま</sup>の出番所<sup>でばんしょ</sup>（門番の詰所<sup>つめしょ</sup>）が設置されています。徳島藩25万7000石の家格<sup>かかく</sup>に応じて建築されたものと考えられ、実際に門に近づくと、その堂々とした風格を感じさせます（図4）。

江戸時代、全国各地の大名屋敷がひしめく巨都市江戸には、多くの武家屋敷門があったと考えられます。しかし、そのほとんどは火災や戦火などにより失われてしまいます。徳島藩ゆかりの「武家屋敷門」は、いくつもの災禍<sup>さいが</sup>をくぐり抜け、現在は東京都の「宝」として、後世に大切に引き継がれています。

（歴史担当：松永友和）



図1 西澄寺の山門。江戸時代は徳島藩江戸屋敷（中屋敷）の門で、現在は東京都有形文化財に指定されている。



図3 瓦には蜂須賀家の家紋「左万字」紋が見える。



図2 正面右側から見た門



図4 正面右側の潜戸と出番所。堂々とした風格を感じさせる。（写真はいずれも2016年12月、筆者撮影）

# 7月から9月までの博物館普及行事 あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
野外生きものかんさつ	中級クラス植物観察会7月	7月 8日(日)	9:30~17:00	不要	小学生から一般	
	川魚かんさつ★	7月14日(土)	10:00~12:00	要	小学生から一般(40)	現地集合
	漂着物を探そう!&ビーチクラフトを楽しもう!★	7月22日(日)	10:00~15:30	要	小学生から一般(20)	現地集合
	セミの羽化かんさつ★	7月28日(土)	19:00~20:30	要	小学生から一般(20)	文化の森公園集合
	水生昆虫のかんさつ★	7月29日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(40)	現地集合
	初めての植物かんさつ(夏編)★	8月18日(土)	13:30~15:30	不要	小学生から一般	同日開催「ゼロから始める植物学」
	河口の生きものかんさつ★	9月 9日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(60)	現地集合
	中級クラス植物観察会9月	9月16日(日)	9:30~17:00	不要	小学生から一般	
みどりを楽しむ・味わおう	夏休みの自由研究に! 植物の繊維を取ろう★	7月22日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(20)	
たのしい地学体験教室	貝化石標本をつくろう★	7月 8日(日)	13:00~15:30	要	小学生から一般(25)	小学校5年生以上
	化石のレプリカをつくろう!★	8月 4日(土)	13:30~15:00	要	小学生から一般(25)	材料費100円(高校生以下は不要)
	アンモナイト標本をつくろう!★	9月 1日(土)	13:30~15:30	要	小学生から一般(20)	材料費300円(高校生以下は不要)
古文書で学ぶ歴史入門	古文書に親しむ①	9月15日(土)	13:30~15:00	要	小学生から一般(30)	①~③セット申込みは9/5(水)まで
ワクワクむかし体験	さきどり自由研究、民具にチャレンジ★	7月15日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(20)	
ミュージアムトーク	ゼロから始める植物学~標本の作り方編~	8月18日(土)	10:30~12:00	不要	小学生から一般	同日開催「初めての植物かんさつ」
海部自然・文化セミナー ※海陽町立博物館共催	近世中期阿波の社会状況-郡代報告書を手がかりに-	7月22日(日)	13:30~15:00	不要	(50)	海南文化館
	とくしまの海の哺乳類	8月26日(日)	13:30~15:00	不要	(50)	海南文化館
	海部の中世城館	9月30日(日)	13:30~15:00	不要	(50)	海南文化館
企画展関連行事	企画展「ジャングルいきもの図鑑」展示解説	7月22日(日)	15:30~16:00	不要	-	観覧料必要
	企画展記念講演会「恐竜はどんな森を見ていたか-日本の恐竜時代の森林-」	7月29日(日)	13:00~14:30	不要	(50)	
	企画展「ジャングルいきもの図鑑」展示解説	8月12日(日)	13:00~13:30	不要	-	観覧料必要
	企画展「ジャングルいきもの図鑑」展示解説	9月 2日(日)	14:30~15:00	不要	-	観覧料必要
部門展示関連行事	部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション」展示解説	8月 5日(日)	14:00~15:00	不要	-	観覧料必要
	部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション」展示解説	8月12日(日)	14:00~15:00	不要	-	観覧料必要
	部門展示「小川昌彦氏の蝶コレクション」展示解説	9月30日(日)	14:00~15:00	不要	-	観覧料必要
ジュニア学芸員講座	ジュニア学芸員講座①	8月 2日(木)	10:00~16:00	要	小学校5・6年生/中学生(20)	①・②セット申込みは7/23(月)必着
	ジュニア学芸員講座②	8月 3日(金)	10:00~16:00			
博物館スペシャル	教員のための博物館の日 in 徳島	7月25日(水)	10:00~16:00	要	お申し込み・お問い合わせは、徳島県立総合教育センターへ(088-672-6418)	
	夜の博物館ドキドキ体験ツアー	8月11日(土・祝)	19:00~20:30	要	小学生から一般(30)	
	文化の森サマーフェスティバル	8月19日(日)	9:30~16:00	不要	-	
	標本の名前を調べる会★	8月26日(日)	10:00~16:00	不要	小学生から一般	☆参照

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。  
 ☆「標本の名前を調べる会」は、植物・動物(昆虫・貝など)・岩石・化石などの標本の名前を調べる会です。希望者は採集標本(1人30点以内)を持って、直接博物館までお越しください。定員はありません。

## 普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎行事日の1か月前から10日前までに必着でお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名を記入してください。
- ※平成29年6月1日より、はがきの料金が改訂されています。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。
- ※お問い合わせは、徳島県立博物館へ(電話 088-668-3636)

### 往復はがきの記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
62 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	62 〒□□□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名 (学年・年齢) 3.住所 4.電話番号

## 特典がいっぱい!! 博物館友の会に入会しませんか!

博物館友の会は、さまざまな活動を通して自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流を図っています。2018年度も楽しい行事が予定されています。みなさんも参加してみませんか?

■年会費 ・個人会員2,000円 ・家族会員3,000円  
(10月以降、年会費がそれぞれ半額となります。)

### ■会員の特典

- ・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。(一部の企画展を除く)
- ・友の会の行事に参加できます。
- ・友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入できます。
- ・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。



### ◆2018年度行事予定(友の会会員対象の行事です。)

- 5月27日(日) 化石を探そう (兵庫県南あわじ市)
- 6月16日(土) 兵庫日帰りバスツアー (神戸市立須磨海浜水族園など)
- 7月21日(土) ライトトラップで昆虫観察 (佐那河内村)
- 10月27日(土) 拓本をとってみよう (県立博物館)
- 11月上旬 遺跡・古墳見学 (徳島県内)
- 3月上旬 淡路日帰りバスツアー (兵庫県洲本市など)

※行事名・期日・場所は変更する場合があります。あらかじめご了承ください。詳しくは、友の会事務局まで(電話 088-668-3636)



上記お問い合わせは、徳島県立博物館へ(電話 088-668-3636)